

# ダム

## 豊かな地域と安全を確保するダム再生事業




### ダム再生とは

近年、毎年のように発生する洪水・渇水被害や気候変動の影響の顕在化から、今後の水害の頻発化・激甚化が懸念されています。

国土交通省では、平成29年6月に策定した「ダム再生ビジョン」を踏まえ、既設ダムを運用しながら最大限に活用するソフト・ハード対策（賢く柔軟な運用×賢く整備）の推進に取り組んでいます。戦略的・計画的に進め、治水・利水両面にわたる効果を早期に発揮させます。

### 大淀川水系河川整備計画における岩瀬ダムの位置付け

大淀川において既往最大の平成17年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、岩瀬ダム（既設）の洪水調節機能を増強することが必要となります。今後は、関係機関等と調整を図りながら、調査・検討の上、諸元等の詳細について決定し、必要な対策を実施します。

### 岩瀬ダム再生事業までの歩み

| | | |
|---|---|---|
| 平成17年 | 9月 | 台風14号による洪水で、基本高水のピーク流量を上回る洪水が発生 |
| 平成28年 | 7月 | 「大淀川水系河川整備基本方針」変更策定（H28.7.14） |
| 平成30年 | 6月 | 「大淀川水系河川整備計画」変更策定（H30.6.29） |
| 平成31年 | 4月 | 再生事業実施計画調査に着手 |

# 岩瀬ダムの概要

Dam

岩瀬ダムは、大淀川水系岩瀬川の下流、都城市（右岸）と小林市（左岸）にまたがるところに位置しています。大淀川下流の水害軽減（治水）と発電（利水）を目的とし昭和 42 年 7 月に完成しました。
管理開始から約 54 年が経過し宮崎県にて管理されています。

【岩瀬ダム諸元】　※（　）は再生前の諸元

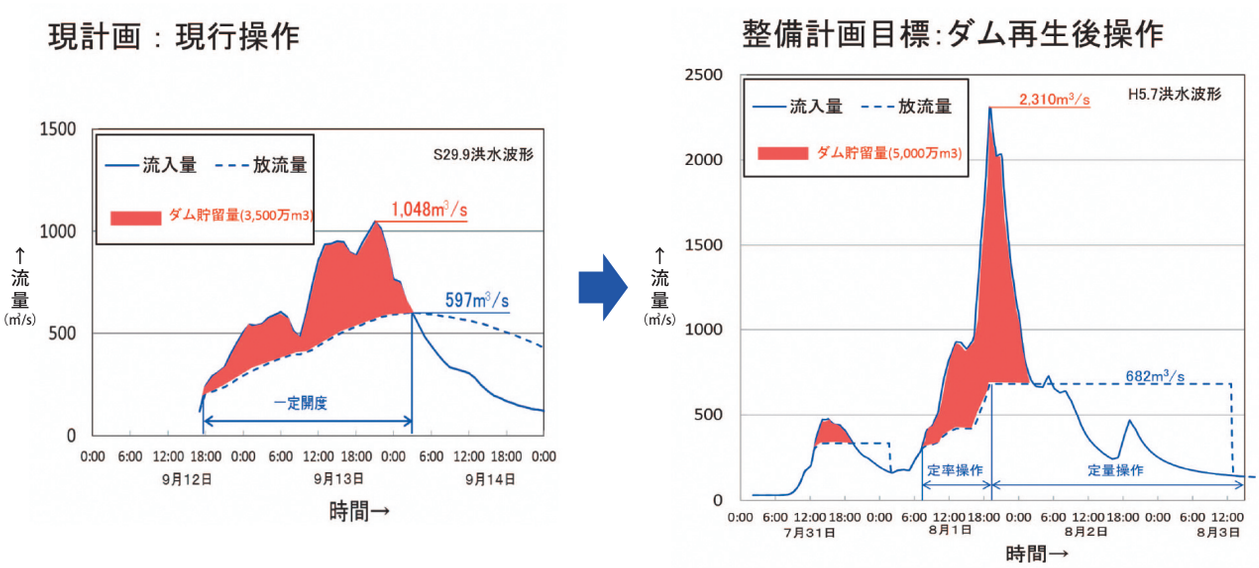
| | | | |
|---|---|---|---|
| 形　式：重力式コンクリートダム | | 総貯水容量 | ：5,700㎥ |
| ダム高：55.5m | | 有効貯水容量 | ：5,000万㎥　（4,100万m³） |
| 堤頂長：155.0m | | 集水面積 | ：354k㎡ |

# 岩瀬ダム再生事業の概要

Dam

■事業内容　：　岩瀬ダム（既設）の発電容量及び死水容量を洪水調節容量に振り替えることで、現況の洪水調節容量を約3,500万m³から約5,000万m³ に増大させ、放流設備の増設を行うことにより、治水機能の向上を図ります。

## 岩瀬ダム再生事業イメージ




## 貯水池容量配分図のイメージ

